

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

<派遣生の基本情報>

氏名：李 知映

所属先：人文社会系研究科 文化資源学研究専攻 文化経営分野 博士2年

派遣形態：大学院生個人派遣

<研究課題名>

：「韓国朝鮮における1940年代前期の「国民演劇」に関する研究」

<派遣先での活動>

(1) 派遣先の基本情報

国名：アメリカ

都市名：ボストン

研究機関名：ハーバード大学 イェンチン図書館

(2) 派遣期間

出発日：2012. 9. 21

帰国日：2012. 10. 8

総日数：17日間

<主な研究成果>

(1) 当初の計画の概要

報告者は、日本植民地治下であった朝鮮で「国民演劇」（1940年～1945年）がどのような形で行われていたか、その実態を考察している。「国民演劇」の歴史的な責任だけではなく、その副次的な意味を掘り起こし、演劇史的・文化史的な側面から「国民演劇」を評価する必要があると考えている。韓国でも行方不明であった「国民演劇」の台本多数が韓国のある研究者によりアメリカのハーバード大学イェンチン図書館で発見された。ゆえに本派遣事業を通して、その原本を自ら確認することを目標とする。

(2) 実際に達成された成果

まず資料確認及び収集は、日本植民地治下であった朝鮮で行われた「国民演劇」の台本について、ハーバード大学イェンチン図書館にて18作品の台本、その原本を確認することができた。また、台本以外の「国民演劇」に関する資料及び1930年～1955年の演劇関連資

料も収集することができた。これらの資料の多くは、韓国の図書館では貴重資料と分類され公開されていないものである。それだけではなく、当初の計画には無かったが北朝鮮の演劇台本及び演劇書籍も多数あることがわかり、特に朝鮮が分断されたころの時期を中心に、それらの収集も行った。これらの資料収集の方法としては、コピー、デジタルカメラ撮影、画像スキャンの3種類を適宜使い分けた。

また、イェンチン図書館の韓国担当司書であるカン・ミンギョン氏へのインタビューを通して、報告者が調べた「国民演劇」の台本がイェンチン図書館へ流れてきたのは1968年5月であることが分かった。しかし残念ながらこれらの台本が何故韓国で集められアメリカまで流れてきたのかという経緯についてまでは知る事が出来なかった。

最後に、「国民演劇」が行われていた時期は検閲が厳しい時期であったため、「国民演劇」台本の原本にその痕跡を探してみた。検閲らしきものは見つかったが、確信までには至らなかった。

以上、当初の計画通り本派遣事業を通して「国民演劇」台本の原本を自ら確認することにより、当時の演劇界の状況に一步近づくことが出来た。

### (3) 今後の研究展望

本派遣事業を通して収集した貴重な様々な資料を用いて、引き続き植民地朝鮮での「国民演劇」の実態について考察を進める。特に「国民演劇」台本の原本に検閲らしきものを発見したので、当時の演劇に対する検閲問題を含め、検討を進めていきたい。

また、当初計画の時には思いもよらなかった北朝鮮の演劇関連資料が収集できたため、「国民演劇」に対する見解などについて韓国側だけではなく、北朝鮮側からも読めるか分析していきたい。